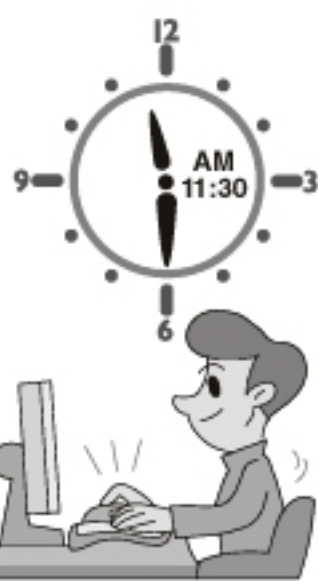


# ある日の新聞社24時

新聞ができるまで

外国・国内通信社からのニュースも

## 2 編集



夕刊の最初の締め切り時間が迫っています。「写真を大きく使って!」「見出しは3本つけよう」整理(編成)は、静かな中にも熱気がこもってきます。ときに大きな声飛び交います。「坊や、この写真運んで!」。坊やと呼ばれたのは、大学生のお兄さんでした。

新聞社には、扱うニュースによって、政治部、経済部、社会部、国際部、運動部、地方部(地方支局)のように分かれています。そして記事に合わせて写真を選んだり、読みやすいように見出しをつけたりするのが、整理部です。



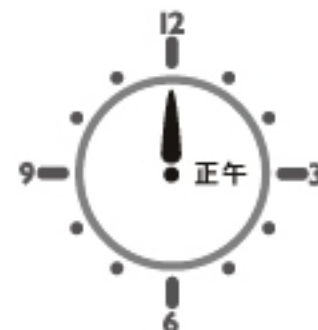
編集作業



## 3 見出し付け組み版

紙面レイアウト

コンピューターを使って夕刊の紙面を作りあげています。時間に追われる仕事なので、気を抜けません。ここでの作業で、歴史に残る名言(名見出し)が生まれることもあります。



## 1 取材



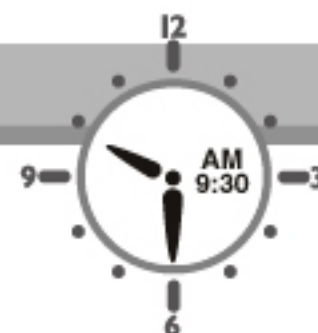
新聞記者の仕事ぶりを表現して、「夜討ち朝駆け」という言葉があります。朝早く、重要情報を持っている取材先の人を、(多くの場合)自宅に訪ねるのです。これが記者の「朝駆け」です。夜も同じことが繰り返されます。

記者会見だけでなく、たくさんの人たちから情報を集め、確認して、記事を書くのが新聞記者の仕事です。

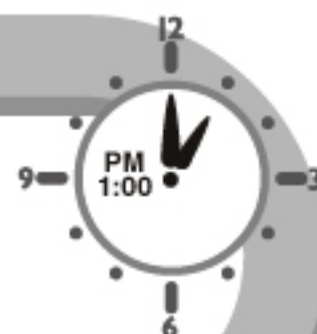


新聞記者の取材活動

記者会見



## 紙面制作



夕刊のある地域では、夕刊の印刷が開始されます。そして、刷り上がった新聞がトラックで次々と、みなさんの住んでいる町に、届けられます。午後5時ごろ、新聞を満載した自転車やバイクで、新聞を配達しているひとの姿をきっと見たことがあるでしょう。「ハイ、夕刊です!」

<PM5:00すぎ 夕刊配達>

配送・家庭への配達

## 印刷

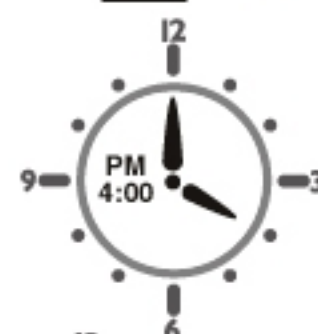


広告とのドッキング



## 4 広告

広告セクションは新聞に広告を掲載するだけでなく、広告主に企画提案するのも仕事です。「企画・制作〇〇新聞社」とクレジットが入っているのがそうした広告です。また、新聞広告の信頼性を保つため広告掲載基準を設けて大げさな表現や不当表示がないかをチェックしています。



## 5 編集・製作

翌日の朝刊をつくる仕事が始まっています。どんなニュースがあるか、編集局のデスクと呼ばれる人たちが集まって編集会議(別名「立ち会い」といいます)をしています(写真上)。刻々と集まるニュース原稿に各部のデ

スクが直しを入れ、整理記者が見出しをつけレイアウトしていきます。各家庭への配達時刻を考えると午前1時ごろには編集局の手を離れ、製作部門へ送られます。そして、午前3時ごろ高速回転機が次々朝刊を印刷していきます。

## 6 輸送

<AM5:00すぎ 朝刊配達>

\*時間は目安です。配達時間は地域によって違います。

トラック待機



このように新聞社は1日中、活動しています。

## 号外

新しいニュースが飛び込んできました。第一級のビッグニュースです。整理部がにわかにそがしくなります。「男の子誕生だ!」紙面を大急ぎでつくり、回転機にかけます。印刷されたそばから、街頭で「号外」が配られます。

